

# 特別支援教育だより

No3

さくら市立氏家小学校  
令和6年10月9日

## 「発達障害のある子の認知の困難とその対応」について

今回は、「衝動性への対応」について、お話します。

### 衝動性とは？

- 突然大声をあげる。
- やたらにはしゃぐ。
- 泣いたり笑ったりの感情の起伏がはげしい。
- 気に入らないことがあると、乱暴な行動をとる。
- 我慢できずに、かんしゃくを起こす。
- 結果を考えずに、危険な行動をしがちである。



原因を探り、共感的に受け止めることで、信頼関係を構築していきます。ひんぱんに衝動的な行動があらわれるときは、医療機関への相談をおすすめします。

### こんなことに配慮してみましょう



- ☆ 衝動的な行動の原因を見つけ、それを事前に取り除いておく。
- ☆ 指導をするときは、情緒が安定しているかを確認し、目を合わせて静かに話しかける。子どもの気持ちを共感的に受けとめ「〇〇がいやだったからなんだね」などと言葉にして返してあげる。原因を共に考え、どうすればよかったかを指導する。
- ☆ かんしゃくを起こしたときは、しばらく放っておき(計画的無視)、むやみに刺激を与えないようにする。
- ☆ 「〇〇しなさい」から「〇〇することもいいし、□□することもできるけれど」など、行動の選択肢を示し、本人が選べるようにする。自分が選んだことだから、責任をもつという自覚を育てていく。
- ☆ 悪いことは悪い。してはいけないことは、しっかりと注意し、社会のルールを教える。誤った学習をさせないこと。

本人の成長を促すばかりでなく、周りの子の気持ちを考え、温かく接していくことに心がけることが、必要になります。